



## フェリーの歴史と役割から見る伊江村の地域づくり

Regional development on the Ie village from the aspects of the history of the ferry service

地域／論文

地域キュレーションコース

玉城 萌

Tamashiro Moe

### 研究目的

人口減少社会に直面しつつある我が国において、地域内、地域間で人やお金、情報の循環を生み出す必要がある。そしてそうした循環を作り出し、地方創生を実現するうえで観光は重要な位置を占めている。こうした流れを創り出すうえで交通は欠かせない存在であり、観光シーンは交通なくては成立しない。こうした地域の交通を維持するためには地域資源とあわせたパッケージ化が有効であるとされている。本研究では、沖縄本島と伊江島を結ぶフェリーに着目し、フェリーの歴史や役割から見る伊江村の地域づくりについて特徴を把握し、とくに観光との関連を中心に考察する事を目的とする。また、離島で暮らす地元住民のフェリーに対する意識と地域への影響についても考察する。

### 結果と考察

沖縄本島から伊江村へ行くには、伊江村が運営するフェリーにのる必要がある。船舶事業を大正9年より開始し、近年はフェリーの旅客実績数と推定観光客数の推移を見ると年間を通して旅客の20%以上は外部からの観光客が占めており、運輸収益に大きく貢献していることがうかがえる。伊江村には文化財、体験・学習施設や山・海といった自然の景観的資源、そしてゆり祭りや伊江島一周マラソン等のイベントなど観光資源や施設が数多く存在する。その他に戦争当時の跡地や資料館が数多く残っているためそれらを利用した教育学習、民家体験泊により来訪者数すなわちフェリーの乗客数を増やしてきた。また伊江村民に対し、フェリーに対する思いや印象、考え方についてのヒアリングやアンケート調査の結果、本島に渡るための足として日常的でありつつ、離島ならではの交通手段として観光産業で重要な役割であるという認識が強いということが明確になった。伊江村におけるフェリーと地域づくりの関係について、大正9年から村営のフェリーと独自のイベントや観光、民泊など観光産業に積極的に取り組み、どちらも早い段階で一体的に成長させたこと、そして村民目線でできるだけ便利で安全な運航を村が直接担ってきたことが、結果地域を支える重要なパッケージ化(一体化)につながり、地域づくりに貢献していると考えられる。